



経腸栄養剤投与時の下痢

胃瘻・経鼻胃管の患者さんは、経腸栄養剤の投与によって便通の変化が生じることがしばしばあります。

経腸栄養剤投与時の合併症としても、下痢が最も多く発生します。

その原因として、下記の項目が考えられます。一度確認して対応を検討してみましょう。

管理栄養士 穂山直美

経腸栄養剤投与による下痢の対応

投与速度	ゆっくり投与。空腸瘻ではポンプ使用
投与量	予定投与量の1/3～1/2から開始し、徐々に増やしていく
浸透圧	浸透圧のより低い製剤に変更する (成分栄養剤は浸透圧が高い)
温度調節	冷やした栄養剤を投与しない 人肌、室温で投与する
食物繊維	食物繊維の含有している経腸栄養剤に変更する 食物繊維を別に投与する
乳糖不耐症	乳糖を含まない製剤に変更する (わが国の経腸栄養剤の大部分は乳糖を含んでいない)
脂肪	消化機能が低下していると下痢を起こす 脂肪を含まない製剤、成分栄養剤などに変更する
細菌汚染	細菌汚染を予防。器具の洗浄方法や清潔管理を確認する
細菌性腸炎	便培養で確認 CD関連下痢症ならば、フラジールまたはバンコマイシンの投与
薬剤使用	止痢剤、整腸剤の使用

参考文献：医歯薬出版 臨床栄養別冊 JCNセレクト ワンステップアップ 経腸栄養

お知らせ

第7回 院内NST研修会

12月13日(水) 17:30～18:30 MGHホール

第8回 院内NST研修会

1月10日(水) 17:30～18:30 MGHホール

どの職種でも参加可能です。栄養に興味のある方ならどなたでもご参加下さい！